

地域安全マップによる安全・安心まちづくり

～安城市立作野小学校を中心とした取組み～

安城市立作野小学校では、平成21年10月から11月にかけて、“児童の危機回避能力の向上”を目的に地域安全マップを作成しました。

その結果、所要の目的は達成しましたが、その一方で、児童を取り巻く環境面の課題が改めて浮き彫りとなりました。

この資料では、地域安全マップの作成、そして、課題の解決に向けた学校、地域住民の取組みについて紹介します。

地域安全マップの作成

平成21年10月5日、午前中の2時間半をかけて地域安全マップ作成のためのまち歩きを行いました。参加者は、下表のとおりです。



実施者	6年生全児童	128人
同行者	保護者	12人
	スクールガード	10人
	防犯パトロール隊	6人
	交番のお巡りさん	1人
	交通指導員	5人
	市職員	3人
	学校職員	5人

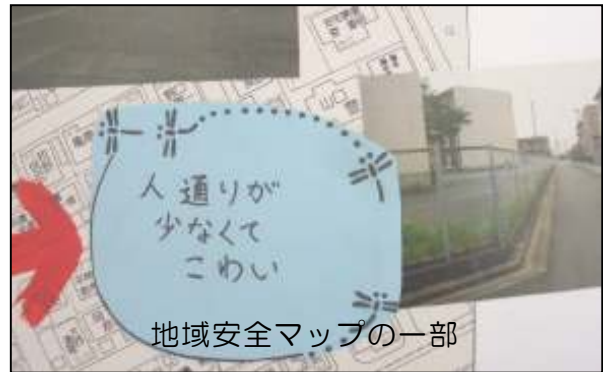
まち歩きは、27班に別れ、“入りやすく、見えにくい場所”をキーワードに、危険な場所を探して回りました。

また、危険な場所だけでなく、こども110番の家など、万一のとくに守ってくれる人たちのところへの訪問も行いました。

ここでは、インタビューをして、まちの様子についていろいろな話を聞きました。



このまち歩きの結果を取りまとめ、11月5日、27枚の地域安全マップが完成しました。



(地域安全マップ作成のためのまち歩きの効果)

- 1 どのような場所が危険なのかを理解し、安全な行動が取れるようになった。
- 2 地域の人たちへのインタビューを通じて地域コミュニティを知り、地域への愛着を強くすることとなった。

保護者を対象とした「児童の安全に関するアンケート」の実施

地域安全マップの作成は、児童の危機回避能力などを高める上で大きな効果がありました。

その一方で、児童の多くが、「人通りの少ない場所が怖い」などと申し立て、大人（緊急時に守ってくれる存在）の目の届かない場所で犯罪被害に遭う不安を覚えていることが、改めて浮き彫りとなりました。

このため、作野小学校では、児童の安全対策をさらに進めるため、12月11日、全保護者を対象として「児童の安全に関するアンケート」を行いました。

このアンケートにおいて、保護者の目に映る“児童が犯罪被害に遭う不安を感じる場所”について意見を求めたところ、児童が地域安全マップに書き入れた結果と同様に、

- 1 見通しの悪い場所
- 2 人目のない場所
- 3 暗い場所

がワースト3となりました。

また、地域安全マップを作成したことに対する意見を求めたところ、9割近くのPT

Aの方が地域安全マップを作成したことに高い関心を持ち、その作成を契機として、児童の安全確保に向けた取組みをしていることも明らかとなりました。

(地域安全マップの作成に関して家庭内で行ったこと 複数回答)

児童と一緒に危険場所などを見て回った	4.5%
児童と危険場所などについて話し合った	83.4%
ご近所の方と児童の安全について話し合った	20.7%
児童の登下校時に見守りをするようになった	11.4%

まちぐるみによる児童の安全性を高めるための取組み ～課題の解決に向け～

1 見守りの目の強化

作野小学校では、地域の方々との連携の下、児童を守る“見守りの目”を増やすため、次の活動の強化に努めています。

こうした活動が活性化すれば、児童の安全性は確実に向上します。

防犯目的の特別な活動

- 作野小スクールガード「作野小見守りたい」
- 住吉町、篠目町の自主防犯パトロール隊

防犯を意識しない日常的な活動

登下校時、放課後など、児童の活動時間における

- 玄関先の掃除
- 草花の手入れ
- ご近所との立ち話 など



立ち話も児童の安全性を高めます

2 暗い場所の解消

児童は、暗い場所で犯罪被害に遭う不安を感じています。

“暗いので、犯罪被害に遭う不安を感じる”と指摘した場所は、15箇所ありました。

町内会の防犯パトロール隊が、日没後、同所において照度計による調査を実施した結果は、右表のとおりでした。

照度（単位 ルクス）	箇所数
0～1	6
1～3	6
3～	3

愛知県が示している“安全性の高い道路の路面照度”は3ルクスです。

町内会では防犯灯を整備していますが、その設置には限界があります。安全性を一層高めるためには、次の活動が効果的です。

暗い場所を解消し、安心感を与える活動

○ 玄関灯や門灯の点灯（一戸一灯運動）

塾帰りなどで帰宅時間が遅くなる児童だけでなく、仕事帰りの女性などにも安心感を与えます。

特に、住宅地では、玄関灯、門灯の灯かりが、街路の明るさに大きな影響を及ぼします。

街路の明るさにムラがあると、暗い場所がより暗く見えるので、玄関灯などが連続して点灯されると効果的です。

この活動は、家庭の灯かりで安全・安心を創出しようとするものです。

3 “伝える活動”の推進

作野小学校では、6年生児童が下級生に対し、地域安全マップの作成を通じて得た危険回避の方法を伝えています。

家庭やご近所で、児童の安全性を高めるための“伝える活動”を行えば、安全の輪が一層広がることとなります。

伝える活動

○ 児童と危険場所について話し合うこと

○ ご近所（知り合い）の方と児童の安全について話し合うこと

作野小学校では、今回作成した地域安全マップを編集し、新入学児童に対して危険回避方法を伝えるための配布用マップを作成しました。



(危険な場所とその理由、こども110番の家などの緊急時の駆け込み場所が記入された配布用マップ)